

令和7年度

まちづくり円卓会議報告書

西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ

目次

1. まちづくり円卓会議の歩み	1
2. 令和7年度まちづくり円卓会議	2
3. 「男性がんサバイバーの地域でのつながり方」	3
開催状況	
1 日 時	
2 場 所	
3 会議メンバー	
4 参観者	
5 開催趣旨	
会議の記録	
参観者の気づき・意見	
成果と課題	
アンケート	
4. その他(広報)	8

(敬称略)

1. まちづくり円卓会議の歩み

そもそも円卓会議とは？

立場や肩書きに関わらず、多様な人々が「対等な立場」で一つのテーブルを囲み、自由かつ活発に意見交換する会議の形式を指す。主に政策決定、地域課題の解決、合意形成(コンセンサス形成)の場として用いられ、率直な対話や協働を促進することを目的としている。

これまでの主な成果と歩み

平成 24 年度に始動した本会議は、時代ごとの地域ニーズに応じ、多くの具体的な変化を生み出してきた。

- **初期の功績:自主的な活動グループの誕生 (H24～H27)** 「障がい者の居場所」や「子どもの放課後カフェ」をテーマに開催。ここから「ノーマライゼーション西東京の会」や「西東京子ども放課後カフェ」などの自主組織が誕生し、現在も地域に根ざした活動が続いている。
- **中期の展開:地域活動の「担い手」育成 (H28～H29)** 公民館講座と連携し、「70 歳からの地域デビュー」を推進。アンケート等で集まった多様な意見を反映させ、学びを実践(地域活動)へとつなげる新しい循環モデルを確立した。
- **直近の成果:社会課題の「自分ごと化」 (H30～R2)** 近年は「ひきこもり」「少年・少女の伴走支援」「LGBTQ」など、潜在化しがちな重要テーマに注力。当事者の生の声に耳を傾け、地域のステークホルダーが共に現状を共有することで、個人の困りごとを「社会全体の課題」として捉え直す深い対話の場となった。

このように「まちづくり円卓会議」は、対話を通じて点在していた活動を面的なつながりへと再編する、重要な役割を果たしてきた。平成 24 年度から平成 30 年度まで、地域連携促進事業の重点事業として実施されたあと、平成 31 年度は 1 テーマ 1 回の会議となり、令和 2 年度と令和 4 年度に開催された。そして今年度 3 年ぶりに円卓会議を開催することとなった。

2. 令和 7 年度のまちづくり円卓会議

一人のがん罹患男性がゆめこらぼを訪れ「自分のような年代の男性がん患者が気軽に話せる場のようなものはないか」と切実な思いを語られたことがきっかけである。難しいテーマではあるものの、市民と専門家による多角的な考察が必要と考え、多者協働プロジェクトとして「男性がんサバイバーの地域でのつながり方」というテーマで円卓会議を開催する運びとなった。

現状課題の共有:

会議メンバーは、医師、地域支援団体代表、管理栄養士、がん経験者から成る 5 名の専門家。まず、それぞれの立場から、日々感じている課題が洗い出された。治療法や病院選びを決断するまでの信頼できる情報にたどりつくことの難しさ、孤食が引き起こす体重減少や栄養の偏りに気付かない「静かな合併症」、仕事と治療の両立の難しさ、退職後の男性にはコミュニティがないことなどが共有された。

「つながり」の構築に向けて:

こういった課題解決に共通するキーワードは「つながり」であり、このつながりをどのように作っていくのか、に内容が進んだ。

男性が既存のがんカフェなどに参加しづらい理由として、女性目線の集まりが多い、ライフステージの差、面と向かって話すスタイルへの苦手意識があることなどが挙げられた。一方、がん種によって、或いは、がんという共通のベースのもとにがんから離れた話をする場なら性差なく出来る、ここは安全な場所、誰でも何でも、がん以外の病気のことでも話していいと感じられる“場の設定”が大切なのである、食事をしながら話が出来たら孤食、情報へたどりつくことの難しさ共に解決できるのでは、などの意見が出た。様々な性格のがんカフェ、がんサロンがあり、選択肢があるということは良いことであり、同時に、その情報を知ることが出来るということが重要である、また、現時点ではその“プッシュ型の情報源”がないこと等も提起された。

実際、男性の地域での場作りにおいてどのような配慮がなされているのか、国内事例の他、海外、例えばイギリスの社会的処方という理念のもと重要な役割を担う“リンクワーカー”、オーストラリアで始まった“メンズシェッド(Shoulder to Shoulder:肩を並べて活動する)”という事例も紹介された。目的があると男性は参加しやすい一方で、ふらっと行ける場所も大事ではないかとの意見も出た。

今後の展望:

現段階における今後の展望として各会議メンバーからは次のような意見が述べられた。西東京市は、在宅療養支援が必要になった段階以降は充実しているが、がん診療連携拠点病院がないことから緩和ケアが普及しづらい地域性があるのかもしれない、だからこそ中小の病院、クリニックが社会的処方を持つよう成長する必要があるのかもしれない。地域情報へのアクセスに際しては、まずは拠点病院のがん相談窓口があることをより広く知って欲しい。そこから行政情報や、地域情報へとつなぐ医療・行政・地域の連携が必要である。身近なところに場の選択肢が複数有ることは大切で、且つその情報が必要な人に良い形で入ってくるのが望まれる。専門職や医療従事者がいる安心感のもと病状を考えながら地域で自分のやりたいことが自分のタイミングで出来る福祉の仕組みを切望する。また、地域循環型医療機関を目指し、民間の自由な発想を活かし多職種とつながる地域のハブとなることが出来たらとの展望も述べられ、貴重なスタートアップの場となった。

今回のまちづくり円卓会議には、がん経験当事者、病院関係者、がんサロン運営、アピアランスケア運営、保険会社勤務、地域団体関係者などこのテーマに深い関心を寄せる 16 名の参観者が集い、共に思考を膨らませた。円卓会議後のアンケートでは、「様々な立場の方の意見を聞くことが出来大変勉強になった」、「業務のヒントをもらった」、「がん患者共通の課題を聞いた」、「つながるためのネットワーク作りを考えていきたい」等、今後活かしていってもらえるような感想を多く頂いた。

筋書きのない円卓会議は、今回、まちづくりに従事するファシリテーターがリードし、フラットな意見交換を促した。また、話し合いの流れはリアルタイムでグラフィックレコーディング手法で可視化し、会議メンバー、参観者ともに思考の整理、ふりかえりに大いに貢献した。

3. 「男性がんサバイバーの地域でのつながり方」

開催状況

- 1 日 時: 令和8年3月8日(日) 13:30~16:15
- 2 場 所: イングビル3F 会議室
- 3 会議メンバー:
 - 1 笠井博人(医療法人社団花楓会 笠井医院院長)
 - 2 後藤紀行(がん経験者 西東京市在住・在勤)
 - 3 高倉理恵(がんを経験した女性のコミュニティ ColorfulRibbons 代表)
 - 4 高世秀仁(東久留米なごみ内科診療所医師)
 - 5 土屋輝幸(武蔵野徳洲会病院 がん病態栄養専門管理栄養士)
- ファシリテーター(若尾健太郎:
一般社団法人まちにわ ひばりが丘事務局長)
- 板書(肱岡優美子、藤田みさえ)
- 4 参観者: 16名
- 5 開催趣旨:

がん罹患男性(70代と推定)が、気軽に話せる会のようなものが近隣にないか、とゆめこらぼを訪れた。当時、西東京市内において相談者のような年代男性が行けるがんサロンの情報が得られず、東久留米市、及び、清瀬市のがんサロンを紹介。(後に2件西東京市内にあることがわかる。)男女の年代別がん罹患数(出典:厚生労働省「令和2年全国がん登録 罹患数・率 報告」)は、55-59歳から男女が入れ替わり、急激に男性が増え、70-74歳は男性が女性の約2倍弱でピークを迎えている。55歳以降の年代はSNSではつながりにくい側面もあり、それ以前の年代を含んでも既存のがんカフェ、がんサロンへの

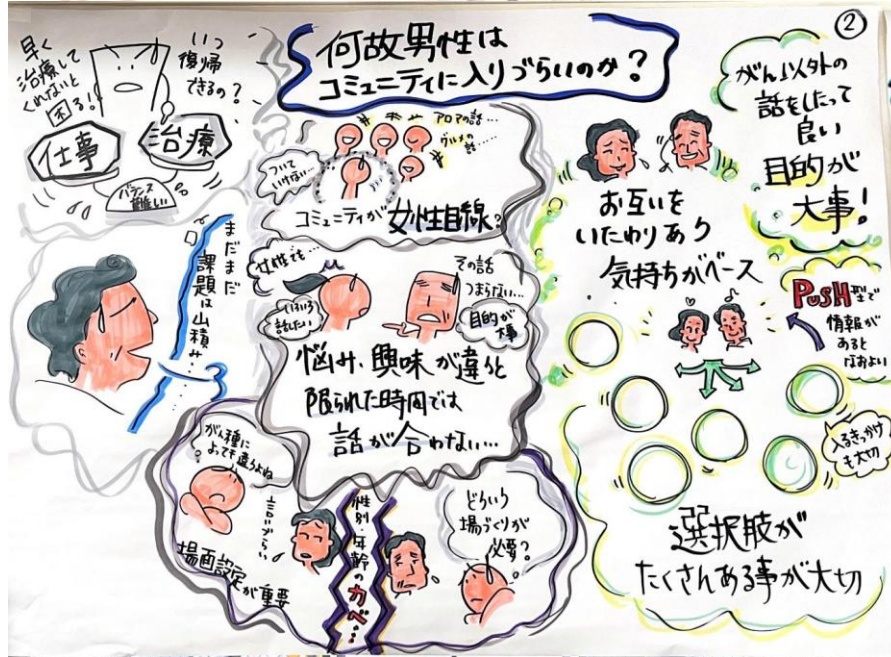
来訪者数は女性に比べ少ない。がんカフェ・サロンや相談支援センターとともに、男性が訪れやすい、別の何らかの仕組み、居場所、きっかけづくりについて考えていく必要があるのではないかと。本企画では円卓会議の手法を取り、自由な意見交換を促し、以下の点について探る機会とした。

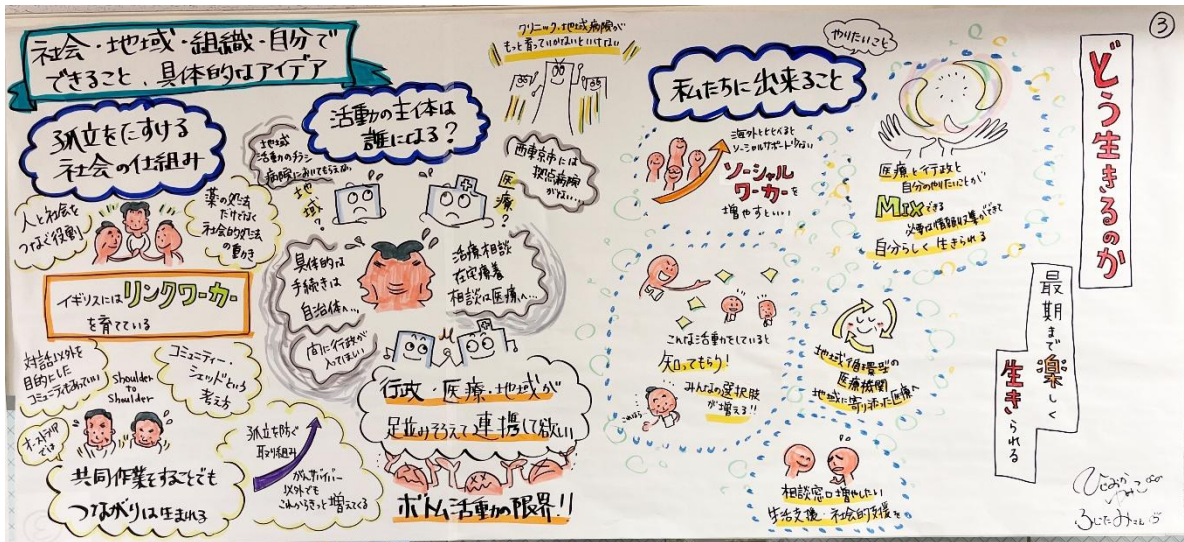
- 相談支援センター、がんサロンを訪れる男性がん患者の相談現状と課題
- 孤立しがちな男性がん患者に対する地域社会における支援の在り方
- 多様な立場からできること

会議の記録

まちづくり円卓会議の対話は、リアルタイムで模造紙にグラフィックで記録された。

(以下、板書)





参観者の気づき・意見

参観者に、会議メンバーの話し合いを聴きながら得られた気づきや意見などを付箋に記入してもらった。後半のトークセッション冒頭にファシリテーターが紹介し、共有しながら対話に入った。

以下、付箋の意見抜粋。

- SNS で積極的に自分の病気を発信できる人がうらやましい。自分ではできない・・・
- がんサバイバーの男性として、一番つらいのは具合が悪いときも仕事中は我慢しなければならないことです。
- がん患者の方々と接する機会が多い仕事をしています。女性のがん患者の集いでは比較的年齢の幅があっても互いに意見交換などできますが、男性の場合は、年代ごとに抱える問題が異なり、なかなかまじわることが難しいように思います。AYA 世代～50 代くらい、このあたり、丁寧なコミュニケーションが必要と思います。
- がんサバイバーの方々が集まりやすい「仕組み」や「企画」で良いアイデアがあれば教えてください。
- 男性がん患者の方々は、女性混合のがんの集まりには参加しづらいと感じていますか？(多くの集まりは、男性は全体数からいくと少なめになってしまうことが多いから)

成果と課題

●成果:

- 円卓会議という手法を用いることにより、課題が洗い出されるだけでなく、展望を共有することにより今後の方向性への手がかりがつかめた。
- 会議の内容は様々な方面に広がっていったが、海外の実例などの話も出、例えばサロンのような居場所はがんの種別で分けたほうが良いのか、性別で分けるべきなのか等、より深く検討すべき余地を残しつつも、西東京市でも実現できそうなヒントが得られた。
- 会議メンバーに栄養に関する専門家が加わることで、市民の暮らしに一番身近な「食べること」という切り口から、より具体的にこの先取り組めそうな形が見えやすくなった。
- 付箋を利用し、参観者に気づきや質問を記載してもらい、それを元に対話することで会議メンバー、参観者共に一つのテーマについて思考の流れを共有することができた。
- グラフィックレコーディングという手法を用い可視化することで、ポイントが整理されやすくなるだけでなく、場に彩りを生み出し、参観者間のコミュニケーションをも促進し、ポジティブな思考へのツールとなった。
また、ゆめこらぼに来れば誰でも記録されたグラフィックを見ることが出来、このテーマを考える機会が増えるのも非常に大事なことだと思う。
- 様々な方面に話が広がったが、早い段階で皆の共通認識として「キーワードはつながりであることは間違いない」ことが再認識できた。

●課題:

- 課題解決への方向性が示唆された一方、具体的な次の一步についての議論へ進む時間が足りなかった。

アンケート(一部抜粋)回答10名

- 男性がんサバイバーと接する機会がありますので、援助の一助を学ぶために参加しました。円卓会議の様々な意見をいただき、男性サバイバーの方の参加方法や援助のヒントをいただきました。
- 病院に勤務する看護師です。`つながり`とても大事だと思います。そのためのネットワークを作りたいと考えていきたいです。私たち医療者が、がんの患者さんの生活を考えることも大切です、そのためのつながりを地域にもつためには地域の方とつながるための活動や努力ができたらと思いました。
- 男性サバイバー以外のがん患者共通の課題を聞きました。色々と咀嚼しながら今後にかかしていきます。
- 「つながれる」の「みえる化」が課題と改めて感じました。
- がん当事者の方、ご家族の方等々、サロンが地域にあると良いと思いました。患者さんも悩みを抱える方も増えており、支援が必要なのだと思いました。
- 特に管理栄養士の方の孤食からの考察、新しい気づきでした。
- 情報交換や相談できる地域のコミュニティがあることを心強く思います。必要な時、機会が来た際にアクセスしたいと思います。知人等にも紹介したいと思います。
- 自分はリタイアしてからの手術だったので仕事の不安などの問題もなく、悩みは治療のこと・将来の健康だった。病気については支障なく話すことが出来たので、皆さんがこんなに悩んでいるのを初めて気付かされました。
- 当事者として参加しました。もっとお話を聞いてほしかった！

4. その他(広報)

チラシ

男性がんサバイバーの 地域でのつながり方 円卓会議



孤立しがちな男性がんサバイバー同士が繋がり、少しでも安心して過ごすために地域でできることは…？
専門家の方々が、解決の方向性を探りアイデアを出し合う公開会議を、参観しませんか！！

— 会議メンバー —

<p>■笠井博人氏 医療法人社団花組会 笠井病院院長</p>	<p>■後藤紀行氏 がん経験者 西東京市在住・在勤</p>	<p>■高倉理恵氏 がんを経験した 女性のコミュニティ Colorful Ribbons代表</p>
<p>■高世秀仁氏 東久留米なこみ内科診療所医師</p>	<p>■土屋輝幸氏 武蔵野徳洲会病院 がん病歴栄養専門管理栄養士</p>	

2026.3.8日 13:30-16:15

参観費 無料 定員 30名 ※申込み多数の場合は抽選

対象

- ・ がんとともに歩む方
- ・ その暮らしを支える方
- ・ これからの地域づくりを共に考えたい全ての方

場所 イングビル3F・会議室
(西東京市南町5-6-18)
※西武新宿線・田無駅 南口徒歩2分



参観のお申込



締切 3.3

■お問合せ 西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ TEL. 042-497-6950
西東京市協働コミュニティ課 TEL. 042-420-2821

主催：西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ

市報

まちづくり円卓会議
男性がんサバイバーの地域での
つながり方


3月8日(日)
午後1時30分～4時15分
イングビル

孤立しがちな男性がんサバイバー同士が繋がり、少しでも安心して過ごしていくために地域でできることは？専門家の方々が方向性を探り、アイデアを出し合う公開会議を参観しませんか。

① 在住・在勤・在学の方 ② 30人(申込多数は抽選) ③ 3月3日(火)までに、申込フォームまたは電話・メールで問へ

問 市民協働推進センターゆめこらぼ
☎ 042-497-6950
✉ info@yumecollabo.jp

▶ 協働コミュニティ課 ☎ 042-420-2821



申込フォーム